

第IV部門

若者の地域資源への関心を高める方策による地域愛着醸成 一福井県大野市を例に一

関西大学環境都市工学部 学生員 ○伊東 英輝

関西大学環境都市工学部 正会員 北詰 恵一

1. 背景と目的

現在日本では、少子高齢化が社会的問題となっており、人口減少が続くとともに、都市部への一極集中や地方部の若年層を中心に人口流出が増加している。また、定住・離脱前の大きな転機となる高校生には、卒業した後も地域との関わりを強めるために、高校生にとって効果的な地域に存在する地域資源との触れ合いなどの中で、高校生が地域や地元の人等への思い「地域愛着」を高め、住み続けたいなどの定住意識を醸成させることも一つ重要となる。しかし、既存研究では、高校生に着目した「地域愛着」の醸成するための規定要因を示したものが少なく、生活環境に応じた効果的な方法を示している論文も少ない。

本研究では地元から定住・離脱する前の高校生にとって、今後の地域との関わりを強めてもらうために、高校生の地域愛着の醸成において生活環境に応じたより効果的な方法を実施し、その効果を分析することを目的とする。

2. 研究方法

研究対象地域として、人口減少が進む福井県大野市を選び、同市の高校生を対象としたアンケート調査を行った。質問項目は、①基本項目、②定住意識に関して、③地域愛着について、④高校生が思う地域愛着について、⑤「わたしが未来の市長プロジェクト」についてである。このプロジェクトは、後に示すように高校生の地域愛着醸成に繋がる方法として捉えており、これを終えて1年たった当時高校2年生と、現在行っている最中である高校1年生を比較することとした。福井県立大野高等学校の1年生の総合学習の一環である大野の課題などを考え、その考えた課題を解決することができるような計画を立て、大野市長に計画を提案する「わたしが未来の市長プロジェクト」の授業に参加し、活動やその役割・効果について考察する。

また、高校生にヒアリングを行い、地域愛着の醸成についての今後の活動への提案を行う。

3. アンケート分析結果

アンケートでは、各質問に対し5段階で回答を求めており、「とてもそう思う=5」、「そう思う=4」、「どちらでもない=3」、「そう思わない=2」、「全然そう思わない=1」と重み付けを行った。

1) 「わたしが未来の市長プロジェクト」によつての地域愛着や地域資源とのかかわり方の比較

図1より地域資源接触の度合いが2学年で異なった。特に学生生活において現在高校1年生の方が現在高校3年生の方より1.33地域接触度合いが高いことが分かった。理由として、現在高校1年生は「わたしが未来の市長プロジェクト」という地域資源との接触が多い授業があることからこれが原因で学生生活での接触量が高くなったと考えられる。

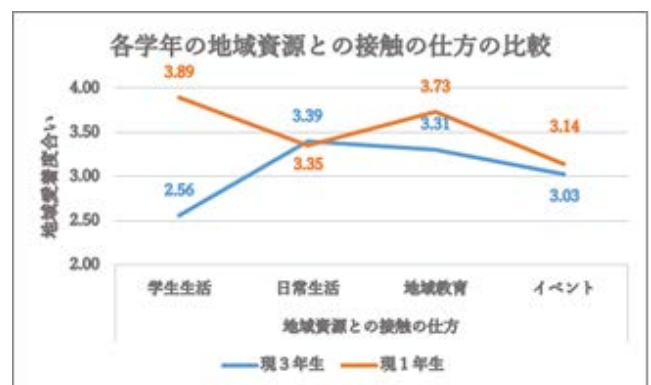


図1 各学年の地域資源との接触の仕方の比較

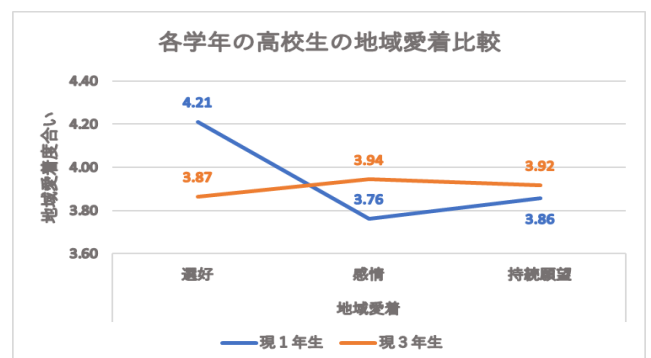


図2 各学年の地域愛着の比較

図2より地域愛着の度合いが2学年で異なった。特に選好において現在高校1年生の方が現在高校3年生より

り 0.34 高いことが分かった。「わたしが未来の市長プロジェクト」は地域愛着醸成において初めの段階では効果的であることが分かった。また、高校 2、3 年生においても地域資源と接触できるような継続的な活動が必要であると考えられる。

2) 地域について考える度合いに応じた地域愛着や地域資源とのかかわり方

地域について考える度合いを、「大野市のことについて考えるきっかけになった」という質問項目について、5 件法を用いて高校生に回答してもらったが、解答数の偏りがあることから、「とてもそう思う.」、「そう思う.」、「どちらでもない等.」の 3 つに分け、分析を行った。図 3 より地域資源接触や地域愛着の度合いが地域について考える度合いによって異なることが分かった。地域資源接触や地域愛着のどちらも地域について考える度合いが大きい人と少ない人とは 1.00 程度の差が出た。地域愛着を醸成するにあたって、地域について考えるきっかけづくりが重要であると考えられる。

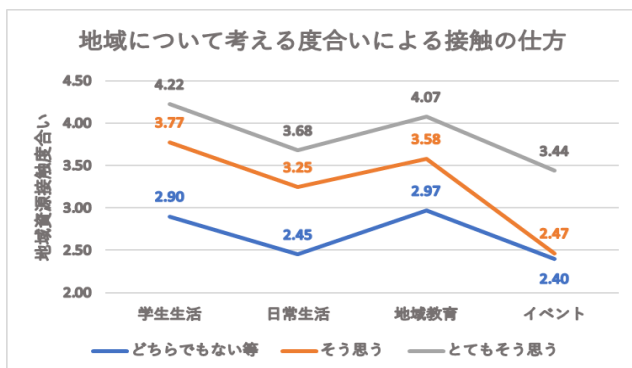


図3 地域を考える度合いによる各地域資源接触

4. 「わたしが未来の市長プロジェクト」について

福井県立大野高等学校の高校 1 年生を対象で、各クラスにそれぞれ大まかなテーマ(本年度はこども・健幸福祉, 地域経済, 暮らし環境, 地域づくり)が与えられ, そのテーマに沿って具体的な計画を考え, 学内発表などを行い, 最終的に大野市長などの前で提案してもらった。総合学習の授業に参加し, 高校生と関わることで地域愛着などの意識に変化や効果について, 上記アンケートおよびヒアリングに基づき調査した。

高校生は, 実際に目につくものや偉人に関するものなどの歴史に興味があるが, それ以上に大野の魅力と云えば自然と答える人が多いことが分かる。また, アンケート分析の結果から大野の魅力については, 「自然」と回

答した高校生は 56% と一番多いことが分かった。アンケートで得られた内容とヒアリングによって得られた内容に整合性があることが確認でき。

また, 多くの高校生の意見として, 勉強場所などの, 何人か集まってコミュニケーションが取れる場所や知識が得られる場所を求めていることがわかった。もちろん, 現在でも, 学校やいくつかの公的施設にそのような場所は提供されているものの, 改めてニーズとして捉えられるということは, そのようなフォーマルな場所だけでなく, それぞれの高校生あるいは高校生グループの求める多様な場所が求められているということと考えられる。そこで思い出を作ってもらい, その場所に愛着を持ち, 大野への愛着に繋げていける可能性を秘めている。特に, プロジェクト提案から導き出されたことから, 高校生自身が企画や運営に触れるような仕掛けとともに, このような機会や場所を提供することが重要であると考えられる。

5. おわりに

本研究では, 高校生に地域のことを考えてもらう機会として「私が未来の市長プロジェクト」を実施し, 地域資源との接触や地域愛着の醸成への効果を分析し, 少なくとも短期的には効果があり, それを地域資源接触の度合いを高めながら継続していく必要性を示した。

なお, 以下のことが今後必要であると考えられる。

- ①「わたしが未来の市長プロジェクト」は地域愛着醸成において初めの段階では効果的ではあるが, 継続して地域資源と接触する機会が必要であるか検証し, 効果的であるか明確にする。
- ②地域愛着の醸成において高校生の要求に答え, その場所や機会に愛着を持ってもらうことが効果的な方法の 1 つであるのかを検証し, 明確にする。

参考文献

- 1) 定住自立圏構想研究会：定住自立圏構想研究会報告書 ～住みたいまちで暮らせる日本を～, 2008.
- 2) 澤本凱智：地域資源接触と地域愛着からみた高校生の定住意識醸成のための関係性分析 -福井県大野市において-, 関西大学卒業論文, 2020.
- 3) 菊澤育代, 近藤加代子：幸福度が定住意向に与える影響に関する研究-宗像市日の里地区を事例に-日本建設学会計画系論文集, 第 84 巻, 第 755 号, PP. 129-136, 2019.